

Naoko Yasuda

Ceramic Art Exhibition
at Midorigaoka Art Museum
in Nara, Japan



化粧を施された益子土は、
たちまちのうちに安田直子が放つ開放感に満ちた金魚たち
の住処となる。

器にさす光と風は、不思議な屈折を見せて
神秘に満ちた世界へと誘いこむ。

いつも身近に見ているはずの金魚の姿は
異次元の空間を覗き込んでいるような錯覚を起こさせる。

安田の描く金魚は、

現実と空想の間を行き来する。

静
け
さ
の
な
か



安田直子 作陶展

2024年6月30日(日)～9月8日(日)

〔開館日〕…水・木・土・日曜日 11時～16時(入館は15時30分まで)

〔休館日〕…月・火・金曜日 ●入場無料

〔会場〕…緑ヶ丘美術館・本館 ↓ 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘273-110

〔URL〕…<http://mam-museum.com> 〈お問い合わせはFAXで…FAX・0743-857880〉

MAM

Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館



N A O

Y A S

K O

Naoko Yasuda ,
Ceramic Art Exhibition
at Midorigaoka Art Museum
in Nara, Japan



▲金魚文水滴

A

安田直子 作陶展



金魚文香炉

安田直子が師匠として仰ぐのは、鉄絵銅彩の神谷紀雄氏。出会いから10年間で弟子として学び、独立後8年が経つ。独自の文様として陶に描き続けているのが「金魚」。

師の教え「まず、顔を作りなさい。人の真似をしてはいけない」。そこから生まれたのが「金魚文」。

修行中に神谷工房で、日々世話をしていた金魚が安田の運命の道標となった。

益子焼の存在感のある甕（かめ）にゆったりと泳ぐ姿は、いつしか安田の筆先で泳ぐようになった。ゆったりとした金魚の動きは、見る人の心を落ち着かせてくれる。

陶に描かれた金魚は、まさしく水に泳ぐ姿そのもの。安田の性格をそのまま映し出している。

安田直子は、金魚しか描かない。金魚絵は、いまや師匠の教えの通り、安田直子の顔となった。

緑ヶ丘美術館、夏の企画展は、安田直子作陶展、テーマは「静けさのなか」。

涼やかなひと時を金魚の作品とともに過ごしてください。

「静けさのなか」



金魚文花瓶



金魚文鉢

◎【安田直子】陶歴

- 1973年 千葉県館山市に生まれる
- 2006年 神谷紀雄氏に師事
- 2009年 東日本伝統工芸展 入選(以後13回)
- 2010年 日本伝統工芸展 入選(以後8回)
- 2016年 東日本伝統工芸展奨励賞 受賞
陶美展 入選(以後6回)
千葉県館山市に築窯
- 2018年 初個展(安房暮らしの研究所で開催)
- 2020年 日本橋三越本店にて個展
- 2021年 笠間陶芸大賞展 入選
重要無形文化財「白磁」伝承者養成技術
研修会受講(2022年終了)
- 2022年 和光歳時記展 出品
- 2023年 萩大賞展VI 入選
陶美展十四代柿右衛門記念賞 受賞

◎【現在】

- ・日本工芸会正会員 ・日本陶芸美術協会会員
- ・陶葉会会員



金魚文壺



金魚文水指

金魚文茶碗



金魚文皿

M·A·M

Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館